

水素利活用の飛躍的推進の実現（行政視察）

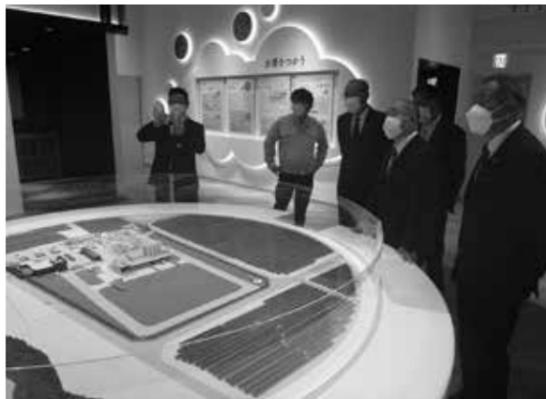
- 1. 期 日 令和4年11月14日（月）～15日（火）
- 2. 視察場所
 - ・福島水素エネルギー研究フィールド（水素製造拠点FH2R）
 - ・福島県浪江町役場（水素タウン構想）
- 3. 目 的

舟形町の未来を見据えたゼロカーボンシティの理想的なエネルギーについての研修
- 4. 視察概要
 - (1) 浪江町水素タウン構想

浪江町は、東日本大震災で原発事故発生により町面積の8割が帰還困難区域となり、現在では一部地域の避難指示が解除され移住が出来るようになったものの震災時の人口から1割程度しか戻っていない。それを教訓に、原子力というエネルギーに頼らない、水素という新たなエネルギーで復興まちづくりを実現するため、水素利活用に全力で取り組んでいる。
 - (2) 福島水素エネルギー研究フィールド
 - ①令和2年3月7日に世界最大級の水素製造拠点FH2Rを開所し、ゼロカーボンシティ達成に向けて、再生可能エネルギーの普及拡大・エネルギーの効率的な利用・水素利活用の拡大を目指し、水素実証フィールドとして活用しFH2R産水素を積極的に活用してもらい水素社会実現に寄与している。
 - ②純水素電池システムの「H2Rex」は、水素を製造、圧縮、貯蔵しガスボンベの様な器具に詰め運搬二酸化炭素を発生させずに発電するシステムで、道の駅なみえを始め、温浴施設、介護施設等に水素の実証運用を開始している。
- 4. 所 感

浪江町の水素タウン構想は、水素供給ネットワークを構築し、町内施設等ですでに納入し実証運用を開始している。

水素社会の実現には様々な法改正も必要だが、水素を利用する環境整備と供給提携により、水素使用の機会を増やす必要があると感じた。



FH2R施設内の全体模型での説明

産業振興常任委員会所管事務調査報告

町民の理解が得られるよう適切な対応を望む

- 1. 期 日 令和4年11月21日（月）
- 2. 調査内容 所管課の事業の概要、進捗状況の調査
 - (1) 東北農林専門職大学（仮称）総合プロジェクトについて
 - ①学生の住環境整備・学生用アパートの建設
 - ②通学及び生活における交通手段の支援
 - ③就農支援
 - ④本町の支援制度の周知
 - (2) 東北農林専門職大学（仮称）関連造成事業について
 - ①東北農林専門職大学（仮称）アパート用地造成工事
 - ②工事の進捗状況
 - (3) 河川災害防止対策事業（寺下地区）について
 - (4) 生涯学習センター大規模改修工事の進捗状況について
 - ①建築改修工事
 - ②電気・機械設備改修工事
- 3. 所 感
 - (1)～(2) 学生用アパートの入居は他町村より好条件で頑張らないと入居は難しいのではないかと。また、交通手段の補助については町民の理解が得られるような適切な対応が望ましい。
 - (3) 河川災害防止対策事業は、本町流雪溝の流末と県道除雪の投雪場所であることから、県道除雪体制を見直しながら工事を進めるよう県に要望する必要がある。
 - (4) 大規模改修により使い勝手が良くなった。大切な施設なので充実した利用方法を話し合い、更に活用して頂きたい。



2基更新された灯油ボイラー（生涯学習センター）

総務文教常任委員会所管事務調査報告

- 1. 期 日 令和4年9月29日（木）
- 2. 調査内容 舟形中学校のICT教育推進事業について
 - (1) AIドリル（Qubena(キュービナ)）導入および活用の進捗
 - (2) 日本一の給食食育推進事業視察
- 3. 調査方法
 - (1) AIドリルを使った授業視察（3年生：社会科）
 - (2) ICT機器の活用状況説明（校長先生）
 - (3) Qubenaソフトについての説明（株COMPASS本社からリモートで説明）
- 4. 調査結果
 - (1) 生徒各自がタブレットで問題を解き、解答状況がその都度先生の端末で把握でき、AIドリルが効果的に活用されていた。
 - (2) 解答が不正解でも間違いの原因を解析して正解に導くことができ、生徒の基礎学力向上と、先生方の業務内容の軽減にも繋がるソフトとして活用されていた。
 - (3) 機器の活用については、先生方への連絡や、生徒の健康観察にも使用しており、十分に活用されていた。

AIドリル活用授業を高評価

5. 所 感

AIドリルは、解答の間違いや、つまづき箇所を見つけ出し、正解に導くことができる教材である。使用状況について、教育事務所からも評価を受けたことは、ICT機器導入の活用について学力のレベルアップにつながっており、委員会としても大変評価できるものである。

また、校長先生がリーダーとなり、機器の活用等に熱心に取り組まれ、教員の意思疎通も図られており、更なる学力の向上を願いたい。

今後は、小学校から同様のAIドリルを導入することで、中学校へ進学後の高度な機器活用に移行できるような授業体制を検討する必要がある。

AI授業を導入してからの学力の変化等については、年度ごとに結果を把握し、次年度の授業に活用し、学力のレベルアップに努めてもらいたい。



小中一貫校行政視察報告 パート2

- ◎小中一貫校制度の種類は？

制度上の小中一貫教育の実施形態は3つあります。

 - 義務教育学校【宮城県名取市立関上小中学校】
 - 併設型の小学校・中学校【宮城県色麻町立色麻小・中学校】
 - 連携型の小学校・中学校
- ◎それぞれの学校の違いは？
 - 義務教育学校とは、初等教育の小学校と前期中等教育の中学校を1つの学校としたものです。
 - 併設型の小学校・中学校とは、同じ設置者による小学校と中学校が同じ学校にならないで別々の学校のまま小中一貫教育を行うものです
 - 連携型の小学校・中学校は、設置者が異なるまま小中一貫教育を行うものです。特に公立の小学校と中学校の場合に設置した市区町村が異なる場合でも小中一貫教育が実施できるように配慮されたものです。



義務教育学校（宮城県名取市立関上小中学校）

- ◎小中一貫教育・小中一貫校のメリットは？
 - 小中ギャップの緩和・解消
 - 系統性・連続性を意識した教育
 - 異学年交流による精神的な発達
 - 継続的な生徒に対する指導 など
- ◎小中一貫教育・小中一貫校のデメリットは？
 - 小学校高学年でリーダーシップや自主性が養われづらくなる。
 - 人間関係が固定化しやすい。
 - 中学校の目新しさが失われてしまう。
 - 小学校卒業の達成感がない・薄れる など



併設型の小学校（宮城県色麻町立色麻小学校・中学校） ※令和5年4月から併設型の義務教育学校になる予定

小中一貫教育・小中一貫校のメリット・デメリットの詳細は次号で